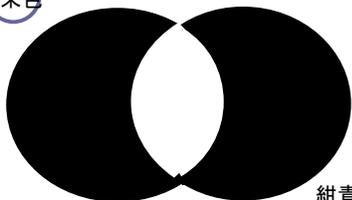


朱色



紺青

### 目次

- |                |             |
|----------------|-------------|
| 1. 事務局通信       | 統括幹事 : 後藤和晃 |
| 2. ニュース        | 事務局         |
| 3. 会の活動報告とお知らせ | 事務局         |
| 4. 会員の広場       | 会員の皆さん      |
| 5. ソウル通信       | 坂野慎治        |

## ◇ 事務局通信

事務局 統括幹事 : 後藤和晃

### ◎ (1) 創立10年を祝いましょう! ~ 3月20日(祝) ~

ことしの2月7日、私たちの会「日韓市民ネットワーク・なごや」は創立から満10年の日を迎えました。この「創立10年」の扱いをどうするか、事務局メンバーは数ヶ月かけて検討してきました。それは、民間交流を地道に重ねている小さな会が、力のある大きな団体のように「10年を祝う会」を、果たして開く必要があるかという疑問があったからです。

しかし最終的には「満10年は大きな節目の一つ、会員一人一人の協力がなければ、今の会は存在していない。どんなに、ささやかでも祝う会は開き、10年の歩みと、これからを語り合おう!」という声が強まりました。

そして、総会のある3月20日(祝)に、総会の終了後、名駅東にあるイタリアレストラン(名誉顧問の鄭煥麒琥珀会長経営)で祝う会を、立食パーティの形で実施することを決めたのです。

会員の皆さんは、ぜひ誘いあって、ご参加いただくようお願いします。

祝う会の参加費については、本来なら御一人5000円のところ、なるべく気軽に参加できるように、成人は4000円、学生は2000円にいたします。差額については、皆さんから会に贈られた寄付金の一部を充てたいと考えます。

会員の皆さん方のご了解を、宜しくお願ひします。

なお、当日総会に参加せず、祝う会のみに出たいという方は、いったん、16時半までに韓国学校に立ち寄り、総会を終えたメンバーと共にレストランへ向かうようお願いしておきます。

※ 祝う会への参加費は、08年度の会費と共に、事前に振り込んでいただくようお願いいたします。総会、祝う会の日程など詳細は、後にあるお知らせ欄を参照してください。



### ◎ (2) 皆さんの善意に心から感謝します!!

## ～ 交流の夕べ・他 ～

12月16日に実施した日韓“学生・市民”交流の夕べに際し、「数多くの留学生を招くために！」と寄付されたお金は、なんと30万8千円（寄付者名後掲）にも上りました。おかげさまで当日は40人近い留学生が参加し、日本側のメンバーと親しげに会話することができました。

和気あいあいとした雰囲気の中で、留学生たちは、日本人学生や市民の友情を、しっかりと受け止めてくれたように見えました。

毎度のことながら、ご寄付を重ねていただいている会員や協力者の方々に心からの敬意をお伝えします。

また、交流の夕べに先立って実施した「百済再発見紀行」の際にも、参加者の皆さんが、韓国女性ガイドの突然の不幸に対し、心温まる寄付をされましたので、事の次第をご紹介します。

それは旅行の最終日の12月10日の朝、ソウルで起こりました。4日間にわたって親身になって、一行を案内してくれたガイドの金嬢が、自宅から出て、私たちのいるホテルに向かう途中の出来事でした。バイクに乗った二人組みの男女に、手に持っていた大切なハンドバックをむりやり、強奪されてしまったのです。中には、

彼女の身分証明書や一切のカード類をはじめ、この日の団体の昼食代金等の多額の現金が入っていたのです。

彼女の災難の一報を受けて、伊藤義郎さんの先導で直ちに彼女への見舞金が集められました。わずかな間に集まったお金は円、韓国ウォン、それにドルと併せて9万円相当に上りました。

ここでも会員の皆さんの善意が遺憾なく発揮されたわけで、改めて心から感謝いたします。



## ニュース

このページは、新聞や雑誌あるいはホームページなど、当会に関係があるニュースを掲載しています。皆さんが、お気づきになったニュースがあればお知らせください。

## ◎ 李明博氏が韓国大統領に就任へ ～ 2月25日・ソウル ～

暮れに行われた選挙でハンナラ党候補の李明博（イ・ミョンバク）前ソウル市長が圧勝し、第17代大統領に就くことが決まりました。

就任式は今月25日にソウルで行われ、日本の福田首相も参席する見通しです。李明博氏は1月17日の記者会見で「日本の福田首相とは電話会議でシャトル外交の復活を提案し、同意した。今後の韓日関係は、歴史問題にとらわれず、未来志向的に進めるようにしたい」と述べました。

日韓関係は、長い間、日本の首相の靖国参拝問題などで冷却状態が続き、両国民の相手国に

対する感情も悪化していました。それだけに、停滞していた対話が一気に再開されるのでは・・・という期待も高まっています。

次期大統領は1941年に日本の大阪で生まれ4才の時、帰国、貧しい暮らしの中でも高麗大を卒業しました。そして現代グループの現代建設社長を経て、ソウル市長へ、そして、大統領へと、ひたすら、挑戦を続けてきた人物です。

知日派の国会議員である実兄とともに韓日の交流を前向きに進めることは間違いないと見られ、大いに期待したいと思います。

## ◇ 会の活動報告とお知らせ

# 1. 報告

## 1) “交流の夕べ” で日韓の歌、大合唱！ ～2007年12月16日～

暮れの12月16日(日)、名古屋韓国学校で恒例の日韓“学生・市民”交流の夕べを開きました。この夜は、留学生37人を含め、会員や顧問の皆さん方など計80人が出席、和やかに交流のひとつときを過ごしました。

留学生の顔ぶれを見てみると、名大、名工大などの地元勢に加え、東からは、東大大学院に在学中の元留学生会長イ・スンフン君が、西からは同志社大学で学んでいるキム・エジョン嬢

も駆けつけてきており、多士済々の印象がありました。一方、創立の頃から会を応援していただいている名誉顧問の鄭煥麒さんを含め、顧問の皆さん方も顔を見せ、留学生たちを大いに激励していただきました。交流の集いは余りの雰囲気よさに3時間も続きましたが、最後に日本の歌、故郷(ふるさと)、韓国のアリランと両国の歌を大合唱して終わりました。

### 会計報告

#### 1) 収支報告

収入	会費	支出	料理・飲物・器類	199,718	
	当日参加者80名		152,000	会場の飾り付け	
	寄付金		ピアノ奏者・謝礼	20,000	
	(下記参照)		くじ引き景品	25,588	
	計		計	250,225	差引残高 209,775
				460,000	

#### 2) 寄付(敬称略)

池田 進	5,000	小坂井多恵子	3,000	崔 崇浩	3,000	安田 守	5,000
石川 聡子	3,500	後藤 和晃	3,000	土田 隆夫	3,000	山田 あき子	2,000
伊藤 みつ子	1,500	酒井 正宏	1,000	出口 和代	3,000	山本 玲子	1,500
伊藤 義郎	3,000	堺澤 一生	3,500	土岐 良文	10,000	李 貞培	2,000
稲熊 浩一	3,500	佐々木 英之	2,000	中川 修介	1,500	匿名	30,000
鶴飼 満	5,000	佐藤 昭子	1,500	長澤 進	6,500	匿名	2,000
大久保 孝造	3,000	佐藤 文臣	3,000	長田 竹子	3,000		
太田 道子	5,000	鈴木 一字	3,000	成瀬 一男	5,000		
大西 さおり	1,500	鈴木 幸之助	10,000	野村 哲	5,000		
大橋 幹夫	2,000	須田 奈保美	2,500	野村 博司	10,000	鄭 煥麒	50,000
岡崎 洋子	3,000	瀬尾 文子	1,000	林 香	1,000	横内 恭	10,000
加藤 勝	1,500	成 功	10,000	原 和夫	2,000	石原 俊洋	10,000
金山 栄子	10,000	田口 良浩	3,000	平松 久仁子	3,000	名古屋韓国学校	10,000
神谷 俊三	3,000	竹中 志保美	2,000	牧野 司	5,000	金 龍鐘	10,000
神谷 良子	1,500	多田 敏雄	5,000	増田 一夫	1,500	禹 一夫	1,500
小出 宣昭	1,500	崔 勝人	3,000	宮本 昌子	1,500		
人員数	( 会員 54 名 * 顧問・招待者など 6 名 ) 計 60 名				合計金額	308,000	

\* ご寄付者のすべての方に領収書を発行しておりませんので、領収書の代替として記しております。もし間違いや記入漏れのある場合は事務局までご連絡下さい。

#### 差し入れ(敬称略)

市川延江(日本酒・くじ引き景品) 後藤和晃(日本酒3升・コーヒー2缶・日本茶2缶)  
 出口和代(お菓子2箱) 山本玲子(ワイン) 山田雅樹(キムチ4株)  
 韓国観光公社(カレンダー多数) ㈱世邦旅行(高麗人参ドリンク・韓国海苔・CD等)

## 2) 百済再発見紀行を実施

交流の夕べに先立つ12月7日(金)から10日(月)まで、韓国の益山(イクサン)、扶余(プヨ)、そしてソウル地区に残る百済王朝の史跡を歩いてきました。益山と扶余では、地元の大学で考古学を教えているイ・タウン教授に解説をお願いした結果、22人の参加者全てから

大いに満足できたと喜んでもらえました。

5ページ以下に多士済々の参加者の感想をスケッチ画、文章、写真等でお伝えします。なお今回はいつに増して、俳句で旅を語る方が多く、そのあたりも楽しみながら、御読みください。

## 3) 日韓市民・大自然の集い ～2007年10月17日～

### 会計報告

収入	会費(参加費)	53,000	支出	料理	50,000
	会より援助	56,363		キャンプ場支払分	32,500
	合計	109,363		飲み物・おつまみ等	26,863
			合計	109,363	

### 寄贈品(敬称略)

李尚勳(チヂミ多数) 後藤和晃(留学生用お土産・お酒など) 中川修介(カレー用ご飯など)  
棚瀬明子(コーラ1箱・みかん多数) 大久保孝造(お酒・お菓子・柿) 市川延江(お菓子)  
佐藤昭子(お惣菜・お菓子) 平松久仁子(シフォンケーキ)

## 2. お知らせ

### 1) 08年度の会費納入をお願いします!

毎年、2月に年会費を納めていただいています。成人4,000円、学生2,000円で例年通りです。会報とともに会費の振込用紙を同封しますので、3月3日(日)までに振り込んでいただくようお願いします。

### 2) 「第11回総会」と「創立10年を祝う会」を開きます

事務局通信ですでに報告した通り、下記の日程で第11回総会と創立10年を祝う会を開きます。今回は会が誕生して満10年の歩みを語りあう機会となりますので、万障繰り合わせ、ぜひご出席下さるようお願いします。

○日程 3月20日(祝)

○総会 名古屋韓国学校2階

15:00開場

15:30～17:00 総会終了後移動

○祝う会 名古屋駅東琥珀ビル2階 イタリア料理店

17:30～19:30

○会費 4,000円(学生は2,000円)

※本来は御一人5,000円ですが、会の予備費から1,000円(学生は3,000円)を補います。

※この祝う会の参加費も恐縮ですが08年度会費と一緒に郵便振替で御振込みください。

### 3) 故水崎林太郎翁の70回忌に参加 ～ 4月10日・韓国・大邱(テグ)

～

昭和の初め、韓国・大邱で巨大な農業用貯水池（寿城池）を完成、荒野を250万坪もの美田に変え、大邱農民の恩人とうたわれた水崎林太郎翁（岐阜市出身）の記念すべき70回忌が開かれます。

日程は、4月10日（木）の午前中に寿城池横の水崎翁の墓前でとなっています。当日、韓国側からはテグ市民や韓日親善交流会のメンバー、それに元駐日韓国大使 呉在熙さんなどが出席します。日本側からは、岐阜に住む水崎翁の子孫たちに加え、日韓市民ネットの会員や福岡市民、さらに釜山の日本総領事館から総領事をはじめ数人が参加する予定です。

この70回忌に参加を希望される方は、事務局の後藤までご連絡ください。



### 4) 新会員紹介

前回の会報編集以降に入会された方で、1月31日までに受付完了されている方々です。（敬称略）

松本麻人	松本美紀子	久保 寿一	棚瀬明子
------	-------	-------	------

### ☆百済紀行参加者の感想文

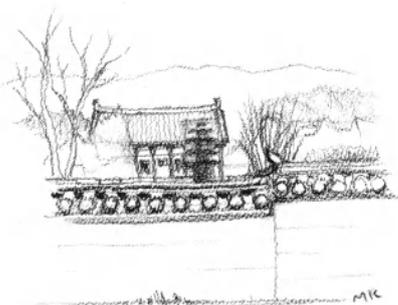
◎ スケッチ ----- 会員 小西池 実



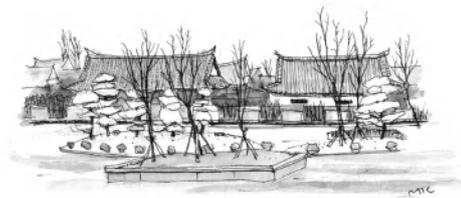
王宮里五層石塔<益山>



復元された弥勒寺の東石塔<益山>  
韓国最古の石塔である西石塔は巨大な覆い屋の中で解体修理中。



中学校横の広場から見た定林寺址<扶余>

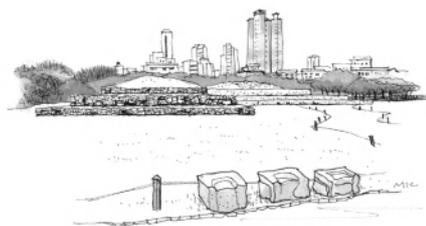


王宮里遺跡展示館からの眺め<益山>

百濟時代から残るといふ五層石塔は修理用の足場で覆われていた。



王宮里遺跡近くの民家<益山>



石林洞の古墳群<ソウル>  
- 4号墳(手前)と3号墳-  
江南の高層ビル群と不思議な調和を見せていた。

◎ 3泊4日 至福の旅 ----- 会員 田口良浩

暮れに韓国へ行ってきました。百濟王朝最後の都、扶余(プヨ)と隣の益山(イクサン)を中心に古代の遺跡を巡る旅でした。扶余市、益山市は韓国の中西部にあり、静かで落ちついた地方都市です。

扶余百濟時代と日本の飛鳥時代とは、ほぼ同じ時期です。当時、日本と朝鮮とは、人・モノ・文化などの往来が頻繁だったことは歴史の時間に少しは習いました。韓国は今、古代の遺跡の発掘や調査、研究がきわめて盛んに行われています。王宮や寺院の遺構、様々な発掘品は、日本各地のそれと共通するものが驚くほど沢山あります。現地の空気を感じながら、実際に遺跡の発掘現場に立ったり、発掘物を目の当りに

しますと、大げさではなく体が震えるほどの興奮を覚えました。至福の3泊4日の旅でした。



◎ “百濟紀行”での新しい発見 ----- 会員 安田 守

今回の旅は以前に私が訪れたところも入っていたので気軽に考えていましたが、結果は予想以上に内容が濃いものでした。そして事前の勉強会で頂いた武井先生作による資料は、歴史考古学に詳しい李タウン教授が感心しておられたほど充実したもので、出発前に読ませて頂き予備知識を得ていたのがとても役立ちました。



現地では李タウン教授にご案内頂いていくつかの廃寺跡、王宮跡などの発掘現場、古墳群や博物館を巡りました。そして教授が説明される途中で時々割り込んで来ては邪魔をする先生のお嬢さん(アミちゃん)の無邪気に笑いが沸き起こるなど、難しい話も楽しく聞

きながら巡る事が出来ました。

数多くの史跡を見学して回りましたが、行くところ行くところで再発見・新発見の連続でした。その中でも、私が今までに2回ほど訪れた事のある、百済王朝の武王が贅を尽くして建立し「百済唯一の3塔3金堂伽藍方式」と聞いている弥勒寺跡は、私にとって再発見という意味では大変興味深いところだったと思います。

現在修復中の西の石塔は、日本が統治時代にコンクリートで補強した部分を取り除いて解体し、最下部が出来た状態で工事は止まっていました。教授の説明によると「これまでに10年近くの歳月と約80億ウオンの費用を費やしている。これから完成するまでにあと約70億ウオンの予算を必要とする事に対してマスコミ等から強い反発を受けている。医者が患者の腹を切り開いてから“さてこれからどうしようか”と考えている様な状態で、このままではいつ完成するか分からない」とのことでした。おおよそ1400年もの昔の建造物を当時のままの姿に復元する事が如何に大変な事業であるかという事を感じました。



さらに「塔を復元するについて7層か9層かという両説があったが、百済の工人が新羅へ行って9層の塔を建てたという史実に照らして、“高いほうが良いだ

ろう」という事で9層にした」と、私としては初めて耳にする李タウン教授らしい(タウン)説明がとてもユニークで楽しく聞かせていただきました。

他にもう1つ、つまらない事でしょうが私にとっては面白い発見をしてきました。それは王宮里出土遺物展示室でトイレを借りたときの事だったと思いますが、そこには小さなシールが貼られていました。

そしてそれにかかれていた言葉は、よく韓国おとぎ話の最初に出てくる前置き言葉「虎がタバコを吸っていた時代」(“昔むかしのその昔”の意)までは読めたのですが後の文言の意味がよく分らず、気になったので武井先生に尋ねました。すると「虎がタバコを吸っていた時代に多くの虎が肺がん罹って死滅し、その為について朝鮮半島から虎が居なくなった」と書いてあったのだそうです。なるほど…、日本でなら「タバコは健康に良くないから止めましょう」とか「禁煙」と書いたシールを貼り付けるところでしょうが、「これこそ李タウン教授のユーモアとユニークさにも通じる“百済びとの心”の再発見ではなかったか」と変なところに感心して帰って来ました。

## ◎ 百済王たちへの挽歌

会員 伊藤義郎

今回の旅は「百済再発見紀行」と名づけられていました。しかし予定表にある益山、扶余、ソウルは2年前の「仏が来た道紀行」でも訪れていたの、本当に「再発見」とうたうほどの歴史学や考古学上の新しい知見が得られるだろうかと少々心配しながら参加しました。でも終わってみれば、それは全くの杞憂だったことをまず正直に告白しておかなければなりません。

この紀行の立役者は3日間にわたって百済の故地、益山と扶余を案内していただいた若手の考古学者李タウン教授でした。李教授から時には学問的に、時には歴史物語的に多彩な知識を与えられた結果、私たちは百済に対する認識、それは韓半島だけでなく日本との深いつながりなどをぐんと深めることができたことを感謝しています。



九州大学で考古学を学び、日本女性と結婚されているという李教授は、最初の見学地である益山の王宮里遺跡で私たちを迎えてくれました。日本人そのままの流暢な日本語で挨拶される教授の姿をみた女性たちから「ワァ、かっこい

い！」と歓声。それも無理もないこと。眉目秀丽、頭上にはまげを結び、服装は朝鮮王朝時代そのままのパジ、チョゴリ（ズボンと上着）と黒いマントの姿で、あたかもイケメン韓流スターが時代劇の衣装のまま現れたかのようなことからです。大学教授に就任当時、余りにも風貌が若々しく、幾度も学生に見間違えられたという事実が重なり、「ではいっそ！」とスタイルでの差別化を図った結果とのことでした。

さてこの李教授から教えられた百済終末期の中で、特に私の心に残った王や太子たちの話を書き記してみたいと思います。

まず、百済の第30代の王、武王のことです。武王は百済王朝最後の王である義慈王の父であり扶余の南30kmにある益山に壮大な王宮や3塔・3金堂形式の巨大寺院 弥勒寺を建立した王でした。（ちなみに武王の孫で義慈王の子である善光太子は百済滅亡の時、大和に滞在中であり子孫はそのまま百済王氏の姓を賜って大和王朝の貴族となります。そして一族の女性たちは桓武、嵯峨、仁明朝の時代には、後宮において皇妃や尚侍として大きな役割を果たしました。）その武王は新羅の真平王の娘で美女の誉れ高かった善花姫を謀り事で王妃に迎えたロマンスの主人公といわれてきました。

ところが李教授によれば武王は王妃の父である新羅の真平王と幾度も国の存亡をかけて戦ったといいます。政略結婚で王妃となった善花姫と武王との仲は冷えきったものだったに違いないというのが李教授の見方です。というのは、松林の中に造られた王と妃の陵墓（伝承）は、互に数百メートルも離れており、ロマンスが真実ならこうした位置関係にはならないだろうと思われるからです。



武王陵

武王の陵墓で興味深かったのは、中から韓国にはないコウヤマキの木棺が出土している事でした。コウヤマキは日本で産出する木目のつまった棺材で、武王から5代前の第25代の武寧王の陵の中からもコウヤマキの木棺が出土していることは広く知られています。

武寧王は日本の九州の島で生まれ、継体天皇と親しく交流した百済王といわれています。そ

うした背景から、王の逝去を悼んで大和王権から高級な棺材としてコウヤマキが贈られたのではないかという見方もあります。武寧王から5代後の武王の陵墓にもコウヤマキの木棺が納められていたことから推察すると、ある時期からは百済王の死去に際し、大和王権からコウヤマキの棺材を贈る慣習が生まれていたのではないのでしょうか。いずれにしてもこれらの木棺は百済と大和王権の強いつながりを雄弁にものごとっていると思いました。

武王の次に印象が深かったのは、武王より3代前の第27代の威徳王（別名昌王）の人間ドラマでした。李教授は扶余で威徳王が建てた寺（陵山里寺と王興寺）の遺跡に私たちを案内し、百済王家の悲劇を語ってくれました。



最初に案内されたのは扶余の羅城（城下全体をとり囲む土塁）の東門のすぐ外にある陵山里寺遺跡でした。この寺は威徳王が父である第26代の百済王聖王の菩提を弔うために建てた寺でした。この聖王こそ日本の歴史教科書で聖明王（せいめいおう）と記している偉大な百済王で、西暦538年（一説では552年）に日本に仏教を伝えた人物です。

聖明王は仏教ばかりか医学・易・暦・音楽等、当時の先進文化を惜しげもなく日本に伝えた忘れられない王でしたが、その最後は余りにも悲劇的でした。

西暦554年、まだ太子であった威徳王が新羅との戦いの前線で孤立し、絶対絶命の危機にあった時、聖王は太子を救出しようと、わずかな手勢をひき連れ戦場に急行する。しかし待ち伏せしていた新羅兵に捕らえられ無残にも首をはねられてしまったのです。

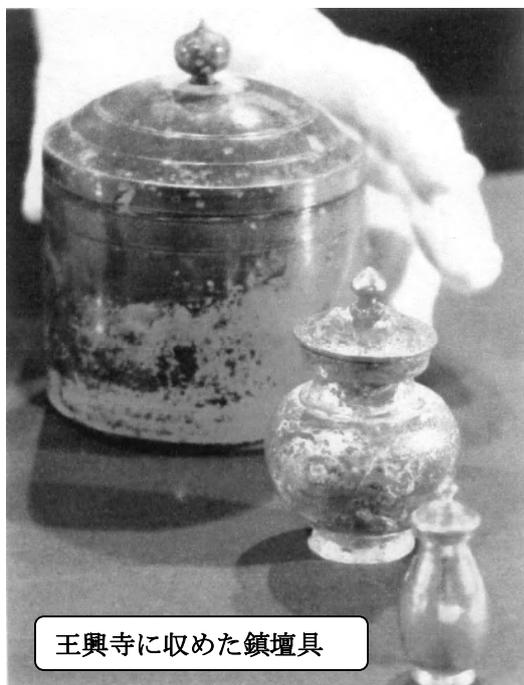
威徳王は父王が自分を救おうとして惨死したことを生涯悔やみ続け、父の菩提を弔うために陵山里寺を建てたのです。かつて寺は中門、木塔、金堂、講堂が南北に一直線に並ぶ、伝統的な百済式寺院として威容を誇っていたといわれます。

しかし百済滅亡後、その寺跡は蓮の花咲く湿地と化していましたが、最近の発掘で昌王（威徳王の別名）の名を記した舍利龕（ガン）や、

世界一華麗で精緻を極めているという金銅製の  
大香炉が出土し、大ニュースとして報道された  
ことは記憶に新しい。新国立博物館でその大香  
炉が展示されていましたが、一見しただけでも  
威徳王の祈りの心が痛々しく伝わってくる思い  
がしました。



金銅大香炉



王興寺に収めた鎮壇具

威徳王が扶余に建立したもう一つの寺、王興  
寺跡は発掘のさなかでした。この遺跡は百濟滅  
亡の際、扶蘇山城の三千の官女が断崖の上から  
身を投じたという白馬江の対岸にありました。

王興寺遺跡で李教授は威徳王を襲ったもう一  
つの悲劇について詳しく話をされました。

それは威徳王が53歳の時、今度は後を継が  
せるべき太子が夭折してしまったのです。先に  
父王を失い、今度は太子を失った威徳王の心の  
闇の深さはいかばかりだったのでしょうか。王  
は深い悲しみの中で王興寺を建て、その塔の心  
礎の中に金、銀、銅の三種類の素材で造った鎮  
壇具の壺を納めさせた。これらの壺が私たちの  
訪問の直前に出土したとあって、韓国の考古学  
ファンはもとより。私たちにも威徳王の存在を  
しっかりと定着させるものとなりました。

威徳王には夭折した太子の他にも実は王子が  
いました。「日本書紀」に貢物を持って大和を訪  
れたと記されている阿佐太子がその人なのです。  
彼は聖徳太子と出会った時「この人こそ観音菩  
薩の化身にちがいない！」とさとり、庭にまで  
降りて、聖徳太子を拜んだというエピソードを  
「伝暦」という書物の中に残しています。その  
阿佐太子は父王の逝去に際し、自分が百濟王に  
なる道を選ばなかったようです。歴代の百濟王  
の苦しみを眼のあたりにしてきて仏心篤い太子  
が王の地位を求めなかったのは至極当然だった  
かもしれません。

これまでは、私は百濟王たちへの挽歌をつづ  
ってきましたが、それ以外の印象も簡単に記し  
ておきます。まず、中期から終末期にかけての  
百濟王朝は母なる大河錦江とその恩恵をうけた  
広大な美田の稔りによって華麗な王朝文化の華  
を咲かせたということです。その華麗さ、優美  
さは中国の南朝の美に由来し、古代朝鮮随一と  
も言われていました。その百濟の王都はいま灰  
燼に帰してはいるものの、その百濟の美の残照  
を幸いにも私たちは日本の明日香、斑鳩、奈良  
の地に見ることができ、それを大切に守り続け  
ていることを忘れてはならないと思いました。

◎ 百濟再発見の旅に参加して ----- 会員 平松久仁子

この旅に参加させていただき、本当に沢山の  
事を知りました。益山、扶余、ソウルと、百濟  
の辿った道を逆から訪れたのですが、それによ  
って、百濟建国の苦勞をより感じる事が出来

たように思います。益山と扶余は、李タウン先  
生、ソウルは武井先生。お二人は、目の前に広  
がる発掘現場、遺跡等々を丁寧に説明してくだ  
さいました。1400年もの眠りから覚めた

色々なものが、都の当時の様子を私に語りかけて来ました。けれども私には、それらが余りにも多く、少々混乱しているのです。そこで、まず扶余にだけ絞って、この旅で理解したことを纏めてみたいと思います。

扶余には古き名を泗泚（サビ）、文字も響きも美しい。国号は南扶余。26代聖明王が、公州から538年に遷都した。この王は仏教を日本に伝え、五経博士を送った。この時の日本は、継体天皇の子欽明天皇の時代であり、日本書紀には聖明王の非業の最期も記されている。百済と飛鳥はほぼ同時代であり、両都には共通点が多い。百済を代表する山は扶蘇山、これを背に王宮が作られ、都は羅城で囲まれている。その中には定林寺—百済当時の名は不明—、他の多くの寺院、工房、井戸、池、果物の種が沢山みつかった貴族の館跡、商人や庶民の家などもあったであろう。

#### 博物館遊びつつ学ぶ冬帽子

出土した物が博物館に展示され、埴（セン・かわら）のレプリカで子供たちが遊んでいた。



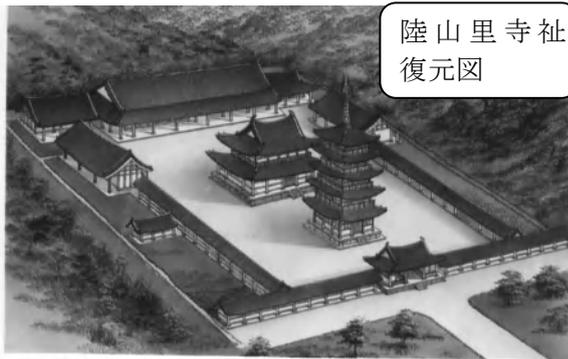
#### 霧氷咲く池のほたりや舳い舟

宮南池を訪ねたのは、-4℃の寒い朝で、池には枯れ蓮が寂しそうだった。

#### 仏像を掬ふは昔土凍てる

池の直ぐ近くの郡守里廢寺は、大学で考古学を学んだ斉藤忠先生が金銅菩薩像を発掘された場所で、手づかみの発掘の瞬間を次の様に書いておられる。

「土はもう泥であった。私は身体中泥まみれになりながら…手を泥の中に入れた私の右手に、にぎられたものがあつた。」



3. 陸山里寺社 復元図

#### 枯芝や王陵に佇つ己が影

王陵は羅城の外で朝日に燦として並んでいた。その隣、陵と羅城の間に聖明王を弔う陵寺跡がある。仏舍利を入れた龕（ガン）がみつき、息子の威徳王と妹が父のために建てた寺とわかった。又ここから金銅大香炉が出土している。塵捨て場の様な思いもかけない所から出たと聞き、経緯を想像して楽しむ。

#### 水鳥や扶蘇山近き白馬江

百済大橋を渡り、扶蘇山の裏へ。落花岩の正面にある威徳王ゆかりの王興寺へ行く。王は子に先立たれた肉親縁の薄い王だった。ここで百済古代史を覆す舍利莊嚴具の出土の話を聞く。一つの出土品で歴史が引っ繰り返ると言われるが、こうしてタウン先生から直にお聞きすると、又違う感慨を覚える。

#### 黒山羊や冬田に大き轍跡

百済が減びる時、女官が身を投じた落花岩を見ようと畦道を歩いて行く我々を黒山羊が見送ってくれた。

#### 扶余の夜や日本酒をくみ年惜しむ

李夕湖先生と会食した時、

高句麗は漢を攻めるばかり

新羅は風土の貧しいところ

百済は暖かく豊かな大地

と各々人情が違っている。扶余はこれからです、是非又訪ねて下さいと言われました。

知識のないまま参加した旅でしたが、沢山の事を教えていただきました。季節を変え、また百済を訪ねたいです。



◎ 百濟紀行俳句

参加者の作品

会員 佐藤 昭子

韓国の古墳巡りや枯芒  
宮南池に群がる大鴨朝日差す  
薄切の大根巻き食(た)ぶ韓(から)料理  
漢江を望むビル群夕霞  
漢江の夕陽を横切る鴨の群



高橋孝子

発掘や心礎の窪の水凍る  
霞を踏む音乾きたる王宮址  
王宮址若き教授の息白き  
寒風や女官自決の岸白し  
謁見の石畳凍つ景福宮

山本 悦子

遺跡掘る手元冬木の影伸ぶる  
円墳をいくつも抱きて山眠る  
川へだて向き合ふ守護神冬ぬくし  
キムチ甕(かめ)並ぶ冬菜の屋敷畑  
温突(オンドル)の宿の煎餅布団かな



山下 智子

木枯や みなうつむきて遺跡掘る  
大櫓(けやき)秀(ほ)より騒(さわ)立(だ)つ  
高麗(こま)鴉(からす)  
三千の入水(じゅすい)の岸や虎落笛(もが  
りぶえ)  
ふところに王陵七基山眠る  
色変えぬ松や貴族の古墳群

◎ 百濟再発見紀行

会員 伊藤 みつ子



扶余の南方30 km、益山へは初めて訪れた。今回は現地・円光大学の考古学・李タウン教授に同行して頂き発掘現場などを懇切丁寧に解説して頂いた。この李先生、「教授」と伺っていたので年配の方を想像していたが、どうみても30代、それになかなかのハンサムな方なのである。また一人ひとりをじっと見つめて熱っぽく、ある時は笑顔を交えてユーモアたっぷり、皆がとりこになるのに時間はかかりませんでした。

2日目から李教授のご家族もご一緒してください、そして私はAmiさんと出会えました。彼女が巧みに話す韓国語の中に時折、日本語が混じっていることに気付き積極的に近づいてみました。そういえば私は何故か、子供と猫には好かれる傾向があるのです。案の定、気に入ってくれたのか、彼女の弟Yoie君も含めて二人から「おばあちゃん！」と呼んで頂けた。お母さんが大宰府ご出身の日本人で、そのおばあちゃんと顔だけでなく、声も似ているそうなのです。親しくなってから、バス車内では三人で一緒に座ったり、広大な発掘地や扶余の観光地を一緒に歩きました。混合していた会話が、韓国語だけ、日本語だけに変わっていき、「英語は？」と尋ねると are you sleeping …と歌い始めたのです。これを歌える程度の英語も習ってみえるようです。また、おばあちゃんから教わったと「鳩ぽっぽ」「七つの子」「夕焼け小焼け」などがきちんと最後まで歌えてました。さすが学者の三世さん、素晴らしい国際人の登場です。テッコンドウも習ってみえるそうで、将来が楽しみな方。10年後、ぜひ日本に留学し

に来て頂きたいですね。

それにしても彼女たちには、お昼寝の習慣がないそうです。確かにあれだけ各地を巡ってついて来てくれたのに、バス車内で寝ることもなく本当にタフでやんちゃな二人でした。これも韓国の食生活のお陰なのでしょう。たくましく勝気で、疲れも知らず…。

お別れする時、教授が冗談っぽく「日本に連れて行ってください！」と。思わず手を出したら、もう近づいてはくれませんでした。その前夜「先生の子供さんと一緒に過ごせて、わたくし光荣でした！」

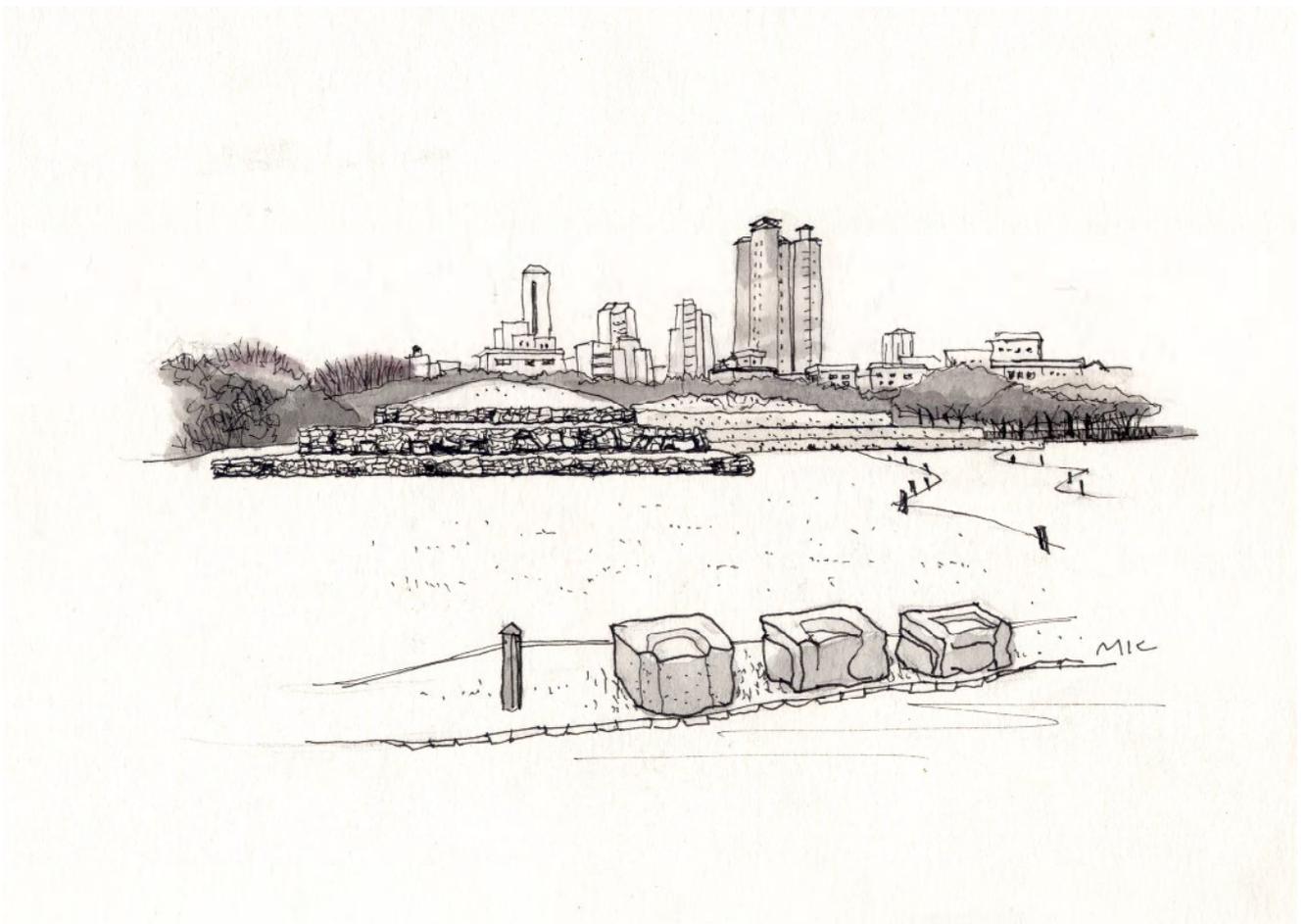
とお話したら「私も、光荣でした！」と返してください、酌み交したお酒の美味しかったこと。

帰国後、事務所の新人に語った旅の感想・第一声が「理想の日韓交流は、国際結婚。貴方もぜひ。」でした。(〜;) 一体、百済で何をしてきたのやら、変な先輩、と思ったことでしょう。

でもご心配には及びません。先生が何度も口にされた「歴史考古学」という学問、何故か気になり始めて益山市から頂いたCDや貴重な資料、時々観ながら彼の地を思い起こしております。それにしても今回の企画も最高でしたね！李教授が褒めて下さった武井先生ご作成の資料も最高でした！4日間の貴重な思い出は、一生の宝にしたいと思います。皆様、何かとお世話になり有難うございました。







◎ 上海の黄君のこと ----- 会員 稲熊浩一

このたび、3年の中国上海での駐在員生活を終えて、名古屋に戻ってきました。後藤さんに何か韓国に関することを書きなさいといわれましたが、上海では、韓国人の友だちもなく、たまに韓国人街へテジカルビを食べに行くくらいで、困ったなど思っていました。

青島や瀋陽に出張したときに感じる韓国企業のパワー、これは肌身に感じました。青島は当時名古屋から直通便がなかったにもかかわらず、ソウルとは1日にシャトルバスのように何便もありました。また、瀋陽には西塔という代表的な韓国・朝鮮人街があります。こちらへ出張したときは、市役所の朝鮮族の通訳の方がプレーンな韓国語をしゃべられるので、びっくりしました。というのも、同じ東北地区の吉林省出身の朝鮮族は、ほとんど朝鮮語よりのコトバをしゃべられるので、てっきり瀋陽（遼寧省）の朝鮮族の方も朝鮮なまりの言葉だとおもっていたからです。ところが、これがまるっきり韓国語とそっくりなのです。くわしい事情はわかりませんが、いぜんより韓国との交流が深く、韓国からビジネスで来る人も昔から多かったので、憧れという要素もあり韓国ドラマでソウル言葉を覚えてしまう若い人が多いということです。

そういえば、私の会社でのアシスタントはたまたま、吉林省朝鮮族自治州にある図們出身者で、100%ナチュラルな朝鮮語でした。黄君といいますが、電話で同じ朝鮮族の奥さんとしゃべられると、こちらは全くわかりません。私の知っている唯一の朝鮮特有語である「サカナ（韓国語：センソン）」は、図們では朝鮮と同じく「ムルコギ」というのかと聞いたら、胸を張ってそうだとっていました。

仕事ではこんなこともありました。上海市役所などへ行って、打ち合わせをするとき、黄君に通訳（日中）をしてもらうと、相手に通じないことがありました。相手がキョトンとして、話が中断するのです。もちろん、数秒後に黄君が、ほかのコトバで言い換えると、相手は、ああ、わかったという表情を見せて一件

落着となるのですが、その数秒間だけ中国語話者同士なのに断絶が生じるのです。

もちろん、上海ではいわゆる中国語はウリマルではありません。れっきとした上海語があり、普段日常、上海人はこれを使ってしゃべっているわけです。上海語をしゃべっても、中国語しか理解できない人とは意思疎通がまったくできません。最近では地方から出てきた人も多いため、オフィスでの業務連絡や、会話の中に地方の人がいるときは自然に中国共通語に切り替わります。

先ほどの話ですが、黄君は上海の人の中国語が完全になまっているから、わからないんですよ、といいません。それも、そうです。が、黄君も小中高校といわゆる朝鮮人学校（少数民族優遇政策による特別学校）で勉強してきており、ほとんど中国語は北京の大学で鍛えられたといっていました。そういう意味では小学校で正式の中国語の発音を教えられる上海人とは、中国語能力の点で50歩100歩なわけです。

何の話か、わからなくなりましたが、黄君とは、ほぼ3年に近い間、ずっと一緒でしたので、いろいろな四方山話をしました。北京の大学に行くとき、お母さんから中国人の奥さんを連れてきたら、縁を切るといわれた話や北朝鮮のテレビを故郷では70年代までよく見ていたという話、それからつらい話ですが朝鮮戦争時におじいさんが朝鮮族義勇軍（朝鮮戦争に参加した中国人部隊はほぼ100パーセント朝鮮族だったこと。）に参加した話など、いろいろありました。やはり、聞いていくにしたがって、もうひとつの韓国朝鮮人、といっても彼らは、アイデンティティ的には中国人なのですが、正確には世界最大のキョッポである朝鮮族の現状と歴史がわかってきたように思いました。

今度は黄君のふるさと、延辺の先の鴨緑江に近い国境のまち、図們まで足を伸ばしてみたいなと思っています。

◎ 名古屋で、京都で…… ----- 会員 山田雅樹

「私、京都・同志社大学への交換留学生に選ばれました。9月から2月まで日本で過ごすけど、名古屋にも遊びに行きたいよね？」

私のホームページに、韓国語で6月に書き込みがあった。書き込んでくれたのは、光州・全南大学の金愛貞（김애정）さん。2006年8月に、我が家にホームステイしに来てくれた彼女が、今度は京都で暮らすことになったのだ。京都と名古屋。近いとは言えないが、それでも名古屋に行きたいと言ってくれた。折りしも12月に交流の夕べがあったので、名古屋に招待

することにした。

パーティー前日、新幹線で名古屋にやってきた。私の従姉妹を呼んで名古屋市内を散策したが、彼女も名古屋に来たことがあるだけに見所探しには本当に頭を悩ませた。結局早めに自宅に帰り、彼女にキムチチゲを作らせる羽目になってしまった。何とも情けない……。

翌日は、私の両親と共にドライブに出かけた。目的地は、岐阜県海津市のお千代保（おちよぼ）稲荷。参拝方法や参道、立ち並ぶ串かつの屋台など京都とは全く違う光景が彼女には新鮮だったようだ。夜は、彼女

と共に「交流の夕べ」に参加。私の知人（日本人）も参加しており、どちらも楽しくお話が出来たようで私も安心した。

1月には、私が京都を訪ねた。彼女の友達と共に、平安神宮・金閣寺・京都タワーを観光した。よく考えたら、京都を観光で訪ねるのは小学生の時以来だ。今回は彼女と共に観光することが出来、幸せであった。しかし、所用によりその日のうちに名古屋へ帰らなければならず、ゆっくり観光できないのは残念であった。京都駅で別れを告げ、構内の階段を上がっても姿が見えなくなるまで手を振ってくれた。嬉しくもあり、また逆に悲しくもあった。帰りの電車の中で、恥ずかしながら涙が出てしまった。

名古屋では何もしてあげられず、また京都では色々案内してもらい彼女には申し訳ないことをした。それでも私を慕ってくれるのは、本当に嬉しい限りであ

る。彼女は帰ってしまうけれど、私のことを忘れることなく、これからも仲良くしてほしい。また、今度私が光州へ行く時は、彼女はもちろん2006年に名古屋を訪れた学生たちとも是非再会したい。彼らは私のことを、覚えていてくれるだろうか。



## 서울 통신

韓国ソウル市在住 坂野慎治さんのソウル便りです。  
韓国 在住生活を基盤として幅広くご活躍されておられるレポートです。  
今後とも期待しております。

### ○ 年末の授賞式なんていらない？

----- 韓国ソウル市在住 会員 坂野慎治

この会報が発行されるころ、韓国では旧正月を迎えているはずですが。韓国では正月を新暦と旧暦で2度迎えますが、盛大なのは旧正月の方で、3日間休みになるため帰省ラッシュも激しくなります。しかし、旧正月は先祖を祭る年中行事としての意味が強く、年始という感じはしません。やはり1年の始まりは1月1日で、除夜の鐘、カウントダウン、年賀状もこの日に合わせて行います。そのため、放送局でも1年を締めくくる様々な授賞式が12月末に開かれます。

そうした授賞式を見ていて驚くのが、数の多さです。地上波放送3社がそれぞれ、ドラマが選考対象の演技大賞、バラエティー番組が選考対象の芸能大賞を放送します。歌謡大賞は、今では廃止されたり大賞を選ばない公演だけになったりしていますが、多くの授賞式が年末ムードを盛り上げます。

しかし、年末を飾る授賞式が毎年、問題にもなっています。その理由は、公正さや必要性が疑問視されているからです。例えば演技大賞は、それぞれの放送局がその年に放送したドラマの出演者を対象に行います。つまりは、手前味噌な授賞式なのです。また、演技大賞は本来、演技のうまい俳優に贈るものですが、視聴率が高かったドラマの出演者への功労賞という意味合いが強いのも事実です。さらに、人気のなかったドラマにも気を配って、すべての出演者に賞が行き渡るほど、数多くの賞が作られています。受賞者の数は放送局ごとに40人を超え、一つの賞に複数の受賞者

(梨花女子大学・通訳翻訳大学院講師)  
という結果もよくあります。

そのため、賞の意義や審査の公正さに疑問が持たれているのです。ある新聞社のアンケート調査によりますと、昨年末の授賞式が「公正ではなかった」という答えが42%、「公正だった」が30%でした。そのため、放送局ごとに授賞式を行わず、アメリカのエミー賞のように韓国を代表する授賞式を共同で開くべきだという意見もあります。

こうした批判は毎年起きていますが、それでも放送局が授賞式を止めないのは、それだけの価値があるからです。まず、出演料を払わずに、多くのトップスターを一度に出演させられるチャンスはめったにありません。しかも、視聴率は10%以上が保障され、広告収入も期待できます。ちなみに、昨年末の演技大賞では、MBCの視聴率が1部で24%、2部で29%と もっとも高くなりました。

このように年末の授賞式をめぐる様々な意見がありますが、お祭り気分番組を見るのも楽しみ方の一つではないかと私は思います。これだけ視聴率が高いのは、審査の基準はともかく、1年間放送されたドラマを振り返りながら出演者の姿を見たいという人が多い証拠でしょうから、あまり難しく考えなくてもいいと思うのです。



## ◇お知らせ・紹介

この欄は、会員の皆さんへ各種ニュースや1～3ヵ月先のイベントのお知らせや、その他もろもろの紹介をしていきます。 会員の皆さんからの情報も待っています。

### 1) 「SANTA～A legend begins～」

SANTA (散打) とは:

ミン・ヨンチ率いるコリアン・パーカッションのスーパー・ユニット。  
日韓共同開催 FIFA ワールドカップ ヨーロッパツアーに、ジャズ、フュージョン  
音楽、国学、舞踊による広報チームが結成され、イタリア、パリ、スペイン、ドイツにて公演を行う。  
活動拠点を日本へ移してから、NHK ニューイヤーコンサートをはじめ、日本各地での公演は、  
「韓国の伝統文化とコンテンポラリーの融合した斬新なスタイル」と好評を博している。  
今、もっとも期待されるアジア発、唯一無二の存在。

日時：2008年2月24日(日) 29:00～(開場28:00)

場所：TOKUZO (名古屋市千種区今池1-6-8 ブルースタービル2F)

<http://www.tokuzo.com/>

料金：前売3,500円 当日4,000円 (別途1ドリンク代)

チケット販売：チケットぴあ

得三 TEL&FAX 052-733-3709

問合せ：TOKUZO TEL. 052-733-3709

### 2) 第13回 韓日歴史・文化フォーラム

テーマと内容 『韓日新時代の展望～李明博時代の幕開け～』

講師：朴一 (パク・イル) 氏

大阪市立大学大学院 経済学研究科

民団中央民族教育委員会 副委員長

日時：2008年4月23日(水) 午後6時開演(午後5時 受付開始)

会場：民団愛知県本部(愛知韓国会館) 5階ホール

名古屋市千種区亀島1-6-2 Tel 052-452-6431

地下鉄東山線「亀島駅」下車、(火)番出口から西へ徒歩1分

会費：500円

主催：韓日歴史・文化フォーラム実行委員会

参加方法：出欠をFAX又はEメールにて2008年4月21日(月)までにお送り下さい。

FAX 052-452-1716 Eメール：jigyo@mindan-aichi.org

その他・会場には駐車場がございませんので、当日お越しの際は公共交通機関をご利用下さい。

・ご不明な点につきましては、韓日歴史・文化フォーラム事務局 丁光荣(チョン・コァンヨン)までお問い合わせください。TEL 052-452-6431 Eメール：jigyo@mindan-aichi.org

#### 編集後記

(2008/2/5)

会報 No. 40 をお届けします。2008 年は韓日観光交流の年とすることが日韓両国より発表されました。当会でも大変お世話になっている韓国観光公社もテレビなどで盛んにピーアールしていますね。これをきっかけに更なる日韓の交流が進むことを期待してみましよう。

池貴巳子さんのイラストは、NHK ラジオ講座 1998 年度から、韓国の古典を題材としたものです。

編集：早川 潤 MAIL junhykw@pop12.odn.ne.jp